

# 境内のご案内

常寂光寺へようこそお語りくださいました。  
QRコードを読み取り、サイトをご覧くださいと詳しい内容が読みになれます。

展望台

歌仙祠



多宝塔

寺伝に、文禄五年(1596)日禰上人が、当寺に隠棲して堂舎を建立し、さらに日韶上人が小早川秀秋の助力を得て桃山城客殿を移築して本堂とし、元和二年(1616)には本圀寺客殿南門を移して山門としたことが見えるから、慶長から元和にかけての頃が、当時の創建期であったらしい。

時雨亭跡

江戸時代中期頃には、この場所に時雨の亭が有り、昭和初期に台風で倒壊するまで建物が存在していた。

竹林

開山堂

竹林

池

トイレ

庫裡

休憩所

女の碑

妙見堂

妙見菩薩は、北極星または北斗を象徴した菩薩様であることから、妙見尊星王、北辰妙見菩薩などといわれます。

本堂

本堂は、第二世通明院日韶上人(日野大納言輝資の息男)代に小早川秀秋の助力を得て、桃山城客殿を移築して本堂としたもの。

苔

末吉坂

春照坊

門

定家山荘跡  
石碑

定家山荘の場所については、諸説ありますが、常寂光寺の仁王門北側から二尊院の南側に有ったと伝えられています。

仁王門

仁王門は、もと本圀寺客殿の南門として貞和年間(1345~49)に建立されたものを、元和二年(1616)に当山に移築され、仁王門とした。

お帰り口

《春》ミツバツツジ、山桜、藪椿などの花木とともに山野草の花々が咲き、3月下旬から5月上旬の間は、百花繚乱となる。若葉の間を鶯や小鳥たちがさえずり、一年を通して境内が最も浄土の相を呈する時期です。境内の青葉モミジが一斉に新芽を出し新鮮な空気を味わっていただけます。

駐車場

《梅雨》梅雨を迎える頃、境内の青葉モミジと苔の緑が鮮やかに生え、心が和む豊かな緑の世界を見ていただけます。

展示場

受付

《夏》暑さの厳しい日中でも一歩境内に入るとモミジの緑陰が参詣者をいやすます。

《秋》11月の中旬頃になりますと境内のモミジは深紅や黄色に染まり、一年中で最も華やかな季節となります。時には奥山から鹿の鳴き声が聞こえ、平安時代以降、紅葉の名所として親しまれてきた情景を満喫していただ感じます。

《冬》京都の山沿い特有の薄雪は、庭園の景色を一変させます。厳かな静寂に包まれた境内をゆっくりとご参詣下さい。

# 常寂光寺

山門

太い角材を格子に組んで造られた山門は、江戸後期に作り変えられたもので、江戸中期出版の「都名所図会」には、袖に土塀をめぐらした薬医門が図示されています。